

やさしさ、あたたかさ、おもいやりを

理事長 貞方洋子



当院は「人にやさしく、あたたかく」をモットーに掲げています。昭和29年に病院が創設されました。私は今から23年前に院長になったのですが、医の原点である「おもいやり」をととても大切にしています。病院ができた頃は結核患者さんだけ、そして結核の外科になったり、その後、胃癌などの手術を手がけるなど、時代時代のニーズに合った診療をおこなってきました。鹿児島大学病院が近くにあったことと、創設の先生が大学の教授だったので、大学の先生方と共に新しい医療に取り組んできました。そういう歴史があって、透析医療は当院が鹿児島で最初に手がけました。消化器科の始まりの際にもテレビレントゲンを入れたり、整形外科ができた時は当時南九州でいち早くMRIを導入しました。

そこに流れているものは、患者さまおひとりおひとりに最新の診断をして最新の治療を施さなければならないという考え方で、それが当院の基本姿勢になっています。また、そうした最新の機器を使うことで、先生方が研鑽を積み研究に励んで実力をつけていかれました。

また、急性期の病院ですので患者さまのためにも、一生懸命に命を守るためにがんばっていくものの、残念ながらここで命を終えられるケースもあります。たとえそうだったとしても、本当に心からの看護を尽くし、その方の人生が良かったといえるものにしてお送りしたいと思っています。私は、患者さまのための病院というのが理想の病院だと考えています。最近、病院の評価が数字で出てきますが、数字には表れない良さというもあります。そこを大事にしていきたいですし、患者さまの喜びが私たちの喜びと思っています。目に見えないところ、だれもがやりたがらないことをしっかりやっていけば、患者さまにおのずと選ばれるのではないのでしょうか。

また、患者さまが自宅にいらっしゃる時と同じように、くつろいだ時間を過ごしていただけるように、新館のデザインには配慮しました。スタッフに関しても、南風の看護師さんはやさしいという声をいただくようになりました。とてもうれしい限りです。最近、看護師さんだけでなく、受付やコメディカルの技師さんなどもチーム医療をしようと患者さまを大事にしてくれます。「検査一つするにも気持ちこめてね」と言い続けてきたことが、かたちになってきたように感じます。

最後に、南風病院は平成17年に地域医療支援病院として承認を受けました。患者さま主体の医療を展開するためには、これまで以上に地域の先生方と密に連携をはかることが求められます。また、病院は専門家集団ですので、医療も最先端でなくては魅力がありません。そのためにも日々の研鑽は欠かせません。学会発表も最近では日本だけでなく外国にも出かけています。これらの日々の研鑽は素晴らしいことですが、“やさしさ、あたたかさ、おもいやり”をスタッフの皆さんには忘れないで欲しいと、いつも願っています。

今後も職員一丸となって、誠心誠意を尽くし、医療者の使命を果たして参りますので、引き続き旧倍のご高配とご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

Nanpou Hospital